

2025年大阪・関西万博の開催に向けて

高まる万博の意義

2018年11月23日のパリでの喜びに満ちた決定から早3年半、この間、経済界・国・博覧会協会、大阪・関西の地元自治体といったオールジャパン体制で万博の成功に向けた開催準備を進めてまいりました。

しかしながら世界は今、大阪開催が決定された時には全く想像もしていなかった、新型コロナウイルスの感染拡大という難題に直面し、この瞬間も克服への挑戦とその先の共存を模索する人類共通の試みが続けられています。世界で「いのち」の尊さが改めて問われている中、ポストコロナにおける未来のシンボルとして「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした万博を2025年に開く意義はより一層高まりました。



2021年12月若宮国際博覧会担当大臣への要望

大阪府知事

吉村洋文

よしむら ひろふみ



大阪・関西万博がめざすもの

この万博では、世界の英知を集め、新たなアイデアやイノベーションなどにより、世界が直面している課題解決に貢献することが期待されています。その期待に応えるような万博にしていくことはもとより、一過性のイベントに終わらせることなく、万博のインパクトを最大限活かし、その後の成長・発展の起爆剤としていかなくはなりません。

そのような万博の実現に向け、大胆な規制改革や国内外からの投資を促進し、起業家をはじめとする多様な人材を呼び込み、コンセプトである「未来社会の実験場」を文字通り体現するために、大阪府は2021年12月に関西経済3団体をはじめ関西広域連合、博覧会協会とともに、「大阪・関西万博に関連す



大阪パビリオン展示イメージ

るソフト事業や規制緩和の要望」を若宮健嗣国際博覧会担当大臣や政府・関係省庁に対して提出しました。これを受け、国において「2025年大阪・関西万博アクションプラン Ver.1」が策定されました。ただ、我々の要望が十分に満たされていないことから、各事業の実現に向け、要望内容のアップデートはもちろんのこと、新たなアイデアも追加するなど、引き続き規制改革や財政的・技術的支援などを求めてまいります。

大阪での取り組み 「大阪パビリオン」の出展

官民共同で企画し出展する大阪パビリオンは、自治体パビリオンでは初めての取り組みです。万博という大阪の存在感を世界にアピールする絶好の機会に、この大阪パビリオンを通じて産学官の知恵とアイデアを結集させ、大阪の都市の活力と魅力をより多くの人々に伝えていきたいと考えております。パビリオンのテーマは、「Reborn〜人は生まれ変わる、新たな一歩を踏み出す〜」といたしました。大阪・関西には、ライフサイエンス分野に強みを持つ多くの企業や大学、研究機関等が集積していることから、そのポテンシャルを活かし「いのち」と「健康」の観点で、未来に向けた新たな価値の創造をめざしていきます。

現在、大阪府市は経済界とともに大阪パビリオン推進委員会を立ち上げ、出展に向けた準備を進めています。2022年3月に取りまとめた「大阪パビリオン出展基本計画」では、「健康」をキーワードに、展示構成全体に2050年頃の実現が想定される「ミライの都市生活」というストーリーを設定しました。パビリオンでは、都市移動用のモビリティ（乗り物）に乘車することで、健康状態がスキヤンされ、その結果をもとに、一人ひとりに

応じた健康医療体験やヘルスケアフード等を提供します。加えて、ビューティーケアやフィットネス、将来可能となる最先端の医療などをご覧いただきます。こうした展示を体験していただくことで、来場者に明るい未来や将来の夢を感じていただくとともに、世界の皆様に、すぐれた技術を持つ中小企業・スタートアップなど、大阪・関西が誇る「知」と「技術」を発信してまいります。さらに、既に本格オープンしているバーチャル大阪とも連携し、未来のエンターテインメントなども展開していきたいと考えています。

わくわくしながら子どもから大人まで楽しめる展示の実現に大いにご期待下さい。

大阪・関西万博の開催まで3年となり、2023年はチケットの前売り販売も予定されています。開幕に向けた動きが加速する中、万博の成功に向けて機運醸成の取り組みも一層進めることで、多くの方々の方々の万博への興味や関心はこれまで以上に高まるものと期待しております。ここ大阪で国家プロジェクトである万博が55年ぶりに開催されます。地元から万博を盛り上げ、全国に広がるように取り組んでまいりますので、経済界の皆様方におかれましても引き続きご支援とご協力をお願いいたします。



バーチャル大阪
公式サイトは
こちらから